

大雨による孤立化
 停滞した梅雨前線の影響により、県内では7月1日から広範囲で大雨となり、各所で様々な災害が発生しました。伊豆半島の北部と南部をつなぐ主要な道路である国道414号においても、崩土により通行止めとなりました。

大雨による孤立化



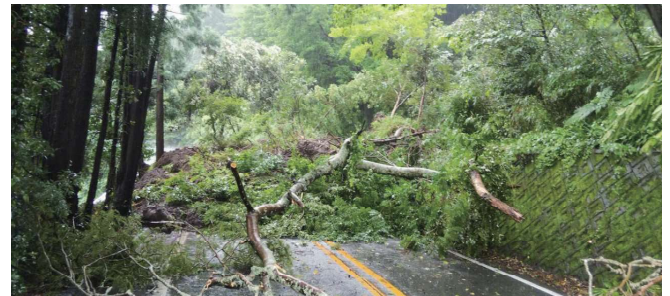
「命の道」 伊豆縦貫自動車道だより

【問合せ先】

建設課伊豆縦貫道係 ☎2219

国土交通省沼津河川国道事務所

伊豆縦貫自動車道下田推進室 ☎0445



国道414号の崩土状況（写真提供：県下田土木事務所）

国道414号の迂回路となる東海岸沿いの国道135号や、西海岸沿いの国道136号も雨量規制により通行がままならず、伊豆急行線の運休も重なり、伊豆半島南部は孤立化した状況となりました。地域の皆さまの車での移動だけでなく、物流や病院への緊急搬送等、大きな影響を及ぼしました。

市は「防災・減災・国土強靱化」に向けたまちづくりを目指す中、災害に強い道路ネットワークの整備は必要不可欠であり、伊豆縦貫自動車道の早期完成を促進しています。



（仮称）河津 IC 付近



（仮称）下田北 IC 付近



※IC名称はすべて仮称

**伊豆縦貫自動車道
河津下田道路（Ⅱ期）事業の状況**

（仮称）河津IC～（仮称）逆川IC間（約3km）について、国土交通省は、令和4年度の開通を目標に事業を進めています。

「河津下田道路（Ⅱ期）」の区間が開通すると、通行時間が約16分短縮されるだけでなく、運転のしやすさも効果として期待され、また、観光バスを含む夏季大型車通行規制区間の迂回が解消されます。医療面においても、救急指定



工事現場見学の様子

県が主催する「静岡どぼくらぶ」の一環で、国土交通省協力の下、7月19日、稲梓中学校全校生徒が（仮称）河津IC周辺の工事現場の見学を行いました。大規模な土木構造物の工事現場が見られるまたとない機会であり、橋梁や（仮称）河津トンネルの建設を間近に見ることができました。生徒たちは伊豆縦貫自動車道の概要や施工方法について説明を受け、伊豆縦貫自動車道建設の理解を深めていました。

**稲梓中学校生徒が
工事現場を見学**



病院への搬送時間の短縮、安全な搬送は大きな効果だと考えています。